

2022年度 法科大学院

第1期入学試験問題

1時限

憲法

(論文式)

試験時間 50分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[憲法]

つぎの文章を読んで、設問に答えなさい。(なお、文章中に記された制度や運用等の内容につき、現在の実際の状況とは異なるところがあるとしても、文章で記された状況であったと仮定して設問に答えること)

XはA大学大学院に在学中の学生であるが、自身の研究テーマとの関係で、当時大きな社会的関心を呼んでいた所得税法違反被告事件（以下「本件事件」という。）の公判を傍聴することとした。Xは、金融商品取引とその法的規制に関する事例研究素材を提供するブログを開設しており、同ブログは多くの読者を獲得していた。Xは、本件事件の公判の傍聴において見聞きした内容も自身のブログに掲載しようと思っていたので、本件事件の審理を担当するB地方裁判所刑事第3部に、各公判期日において法廷内でメモを取ることを許可を申請したが、本件事件を担当する裁判長（以下「本件裁判長」という。）は、傍聴人に対してあらかじめ一般的にメモを取ることを禁止した上、Xに対しても、メモを取ることを許可しなかった（以下「本件措置」という。）。一方で、本件裁判長は、司法記者クラブ所属の報道機関の記者には、各公判期日においてメモを取ることを許可していた。

法廷内で傍聴人がメモを取ることを禁止する理由としては、傍聴人のメモを取る行為が、法廷内の秩序や静穏を乱したり、審理、裁判の場にふさわしくない雰囲気醸し出したり、あるいは証人、被告人に不当な影響を与えたりするなど公正かつ円滑な訴訟運営の妨げとなるおそれがあることが一般に挙げられているが、本件事件については、メモされた内容が訴訟外で公表されることにより、被告人、証人等の訴訟関係人が不当な不利益を受けるような特殊な事情は特に存在していなかった。

Xは、本件事件の公判を傍聴した際にメモを取れなかったことを不服に思い、本件措置を裁判で争うことを考えている。

設問

本件措置の憲法適合性につき、判例を踏まえながら、あなた自身の見解を述べなさい。